

名倉繁樹

差出人:
送信日時:
宛先:

2011年2月17日木曜日 17:31

CC:
件名:
添付ファイル:

推本事務局との意見交換について
ecblank.gif; 推本 活断層の長期評価手法(暫定版)に係るメモ.doc

耐震室各位 <<< 耐震室長小林

22日午前の文科省との意見交換の件です。先方、課長、企画官ほか2~3名とのこと。当方から、あまり大勢で押しかけるのは如何なものかと思しますので、今回当方から持ち出す案件を鑑みて出席者を決めさせていただきます。

今のところ当方からの説明は、バックチェックの進捗状況、新知見関係です。山田課長、私、渡辺補佐(バックチェック進捗状況)、杉原(新知見)、名倉(長期評価手法分析)、増田(議事メモ取り)の6名で臨みたいと思います。

当初、手の空いて人は、出席するようにとの案内を差し上げ、お騒がせし、大変申し訳ありませんでした。
○、この意見交換が定例化した場合には、適宜、皆様にご案内させていただきますので、よろしくお願いします。

送信元:

名倉繁樹 < >

宛先:

< >, < >

Cc:

''kobayashi-masaru'' < >, < >

日付:

2010/11/29 20:23

件名:

○の活断層評価手法(暫定版)について

新知見担当者殿 ←名倉拝

11/25に推本 HP に公開された標題の報告書について、全体に目を通し、原子力施設の耐震審査、評価の現状を踏まえて、差異など留意すべき箇所を抽出しました。

(添付ファイル)

名古屋大学の鈴木先生が長期評価部会のメンバーとなっておりますので、ところどころで当方のバックチェックに対するアンチテーゼな記載が散見されます。(要注意です。)

また、推本として活断層評価手法の課題を挙げている4章については、当方と同様の課題に言及しており参考とすべき情報も多いと思います。

暫定版ということも踏まえると、今年度の新知見調査(来年度報告)において、新知見参考情報となるものと考えております。

なお、今回、全体に目を通したのは、志賀の本報告に係る審議において、能登半島北部の断層帯について、単位区間とそれらの活動範囲（連動）等の評価をするためです。

情報共有まで。

よろしくお願いいたします。

(添付ファイル：推本 活断層の長期評価手法（暫定版）に係るメモ.doc)